

令和 7 年高山市二十歳のつどい 「高山へのアイデア」

「高山へのアイデア」について

二十歳を迎えた方を対象に、高山の課題と、それを解決するアイデアを募集しました。今回は、27 件の応募の中から、市長賞 1 件、協賛企業賞 14 件を決定しました。

いただいたアイデアは、市政の参考とさせていただくため、市役所担当課からのコメントを付けさせていただきましたので、あわせてご覧ください。

ご応募いただいた皆さま、新しい提案をありがとうございました。

高山市二十歳のつどい実行委員会・高山市

目次

入賞

【市長賞（5万円）】 ^{すのうち たけつぐ} 巢内 丈嗣さん.....	3
【協賛企業賞（飛騨農業協同組合賞提供 飛騨牛券1万円）】 ^{すみ かず ほ} 住 一甫さん.....	4
【協賛企業賞（株高山グリーンホテル提供 ホテル商品券1万円）】 ^{しもはた じゅんぺい} 下畑 淳平さん.....	5
【協賛企業賞（株飛騨ハム提供 飛騨牛ハンバ具ー3種セット）】匿名希望.....	6
【協賛企業賞（株飛騨ハム提供 飛騨牛ハンバ具ー3種セット）】 ^{ほらぐち こはる} 洞口 小春さん.....	7
【協賛企業賞（株ひだホテルプラザ提供 オリジナル レトルトカレーセット）】 ^{はばうえ たいち} 幅上 泰地さん...7	
【協賛企業賞（ユーターンシップサポーターズ提供 木製時計）】匿名希望.....	8
【協賛企業賞（飛騨産業(株)提供 アロマセット）】 ^{いわた ま い} 岩田 真依さん.....	9
【協賛企業賞（飛騨産業(株)提供 アロマセット）】匿名希望.....	9
【協賛企業賞（飛騨産業(株)提供 アロマセット）】ペンネーム：おにぎりさん.....	10
【協賛企業賞（株和井田製作所 ノベルティ）】 ^{たなか ふう か} 田中 風花さん.....	11
【協賛企業賞（株和井田製作所 ノベルティ）】匿名希望.....	12
【協賛企業賞（株和井田製作所 ノベルティ）】 ^{さいとう ゆ い} 齊藤 結衣さん.....	13
【協賛企業賞（株和井田製作所 ノベルティ）】 ^{てらだ いぶき} 寺田 伊吹さん.....	14
【協賛企業賞（株和井田製作所 ノベルティ）】匿名希望.....	15
全応募作品	
匿名希望.....	16
^{みやした な つみ} 宮下 菜摘さん.....	16
匿名希望.....	17
匿名希望.....	18
^{こ さか てった} 小坂 哲太さん.....	19
匿名希望.....	19
ペンネーム：ピッコロ犬魔王さん.....	20
匿名希望.....	21
^{よしもと はつね} 吉本 初音さん.....	21
^{いまい ひ な た} 今井 日菜詩さん.....	22
ペンネーム：外舎 K2 郎さん.....	23
^{にしだ さやか} 西田 彩花さん.....	23
【参加賞（濃飛乗合自動車(株) キーホルダー）】応募者全員	

入賞

【市長賞（5万円）】^{すの うち} 巢内 ^{たけつぐ} 丈嗣さん

➤ 市の課題

高山市へのアイデア（観光・交通網）

➤ アイデア

高山市の魅力をさらに引き出すためには、地域資源を活用した新たな取り組みが求められます。例えば、地元の伝統工芸や農業体験をもっと身近に楽しめる「体験型観光」を充実させることが考えられます。地元の人との交流を通じて、観光客が深く地域に触れられるようなプログラムがあれば、観光の質が向上し、リピーターも増えるでしょう。また、市内の交通アクセスの改善も課題です。特に公共交通の本数を増やし、観光客にとって利用しやすい交通網を整えることで、観光シーズン以外の集客も期待できます。こうした取り組みが、高山市の魅力をさらに高める鍵になるでしょう。

➤ 担当課コメント

「体験型観光」につきましては、コロナ禍を契機にコト消費の需要が高まり、それまでの観る観光から体験する観光へ需要が変化しつつあります。高山市では令和3年度より地域資源を活用した「体験プログラム利用促進事業」に取り組んでおり、今年で4年目となります。今後もコンテンツ提供事業者の育成強化を図ることで、より魅力的な体験コンテンツを造成し、高山市の新たな観光コンテンツとして多くの皆様にご利用いただけるよう、認知促進に努めます。（観光課）

公共交通の利用促進には、誰もが利用しやすい環境を整えることが重要だと捉えていますが、人口減少による利用者の減少や運転手不足などの課題があり、現在の路線を維持することも難しくなってきているところです。

特にバス運転手の不足は深刻であり、市では利用者が少なくバス車両で運行していた路線を、小型車両（タクシー）の予約制にするなど、交通事業者で役割分担を変える（大量輸送はバス、少量輸送はタクシー）などの効率化を図っていますが、今後、人口減少に伴い運転手も更に不足すると予想されます。

そのため、今後はライドシェアや自動運転などの新しい移動手段や、地域住民による助け合いによる移動手段の確保についても検討する必要があると考えています。（都市計画課）

伝統工芸産業が衰退傾向にある要因として、生活環境や生活様式の変化による需要の減少や後継者不足が挙げられます。市としても、伝統工芸産業の活性化に向けて様々な取り組みや支援を行っています。

「伝統工芸を取り入れた体験型観光の実施」というアイデアは、地域資源を最大限に活用し、高付加価値化を実現する優れた取り組みであると考えます。体験型観光は、工芸品を「体験」として提供することで観光客の関心を引き、後継者育成や市場拡大にも寄与する可能性があります。既に市内で実施されている事業者もあり、また国の補助制度も創設されていますが、職人の負担が大きいなどの課題もあります。

伝統工芸品を「使う」から「体験する」価値へと転換する体験型観光は、認知度の向上や後継者育成を促進し、地域経済の活性化と伝統工芸の発展に繋がる可能性があるため、引き続き検討してまいります。（商工振興課）

奥飛騨温泉郷地域においては、高山バスセンターからほぼ1時間おきにバスが出発しており、比較的公共交通の便が良い地域です。登山、キャンプ、スキー、オクヒダバギー、スノーシュートレッキングなど四季折々の大自然に触れていただけます。（上宝支所）

【体験型観光】

- ・すのまたふるさと学校（清見町巣野俣）…豊かな自然の中で生きた山村の文化を体を動かして体験できる宿泊研修施設。
- ・おっぱら自然体験センター（清見町大原）…森と清流に囲まれた山里で自然を体験できる宿泊研修施設。（清見支所）

丹生川地域では3年程前から飛騨大鍾乳洞の近くでブルーベリー狩りができるようになり、地元の保育園児も訪れるなどの需要から体験型観光の重要性について再認識しています。体験学習を提供いただける農家が増えれば、農産物に加え、体験提供による収入も増え、経済も潤うと期待しています。（丹生川支所）

【協賛企業賞（飛騨農業協同組合賞提供 飛騨牛券1万円）】住 ^{すみ} ^{かず} ^ほ 一甫さん

➤ 市の課題
若者の地元離れ

➤ アイデア

私は若者の地元離れは良く言えば都会への憧れ、悪く言えば都会に行く＝成功者という概念が大きいことにあると考えます。この概念を変えるためには小学校から地方の仕事、伝統職などを見る、学ぶ機会を増やす必要があると考えます。地元止まることを強要するのではなく、将来私たちが生まれ育ったこの場所に寄与したいという考えを持たせることが大切です。私たちは地元に戻らない原因として就職の幅が狭いことが1番の問題であると考えています。高山市はなににもないという言葉を目にすることもあります。しかし、逆に考えれば高山市では無限の可能性があり、なんでもできると考えることができます。上京し、高山市にしかない伝統がどれだけ大切かがよく分かりました。農業や伝統業は後継者が足りない状況にあります。小学生の時から地元に触れ合う機会を今以上に増やすことがこの問題の解決につながると考えます。

➤ 担当課コメント

これまでも、市の農林畜水産物の魅力を伝えるため、市有施設（指定管理施設）である荒城農業小学校などを活用した農作業体験の機会の創出や出前講座の開催など食農教育に努めてきたところです。

市も参画する高山市地産地消推進会議では、8月31日を語呂合わせで「やさいの日」とし8月と9月を飛騨をまるごと食べんな月間と名付け、農家ツアーや料理教室など2か月間を中心に年間を通じてさまざまな活動を行っています。皆さんが小中学校生の頃、まるごと飛騨の日として年間4回、飛騨の食材をふんだんに使った学校給食を召し上がった

ことと思います。飛騨は冷涼な気候やきれいな水などの風土を活かし、国内でもハウレンソウやトマト、飛騨牛などをはじめ有数の産地となっており、ひとつの地域でほぼ全ての食材が調達できる数少なくうらやましい産地となっています。

農家戸数の減少や農業者の少子高齢化は全国的な課題となっている中で、市では多様な担い手を確保、育成していくため都市部での農業フェアへの出展や農業を志す方への研修の実施、農業を始められた方への施設や機械経費の一部を支援するなどさまざまな施策を行っています。

今後も飛騨の先人達が築いてきた技術や伝統を次の世代へ継承していくため、農家をはじめ関係機関と持続可能な農業生産地づくりを目指していくこととしています。（農務課）

幼少期から地元の職業や伝統工芸産業に触れる機会を提供することにより、こどもたちは自分の地域や文化、産業への誇りを持ち、将来的に地域への愛着を深めることができます。これにより、地元就職につながることを期待されます。

市では、地域の事業者や関係団体と連携し、小中学生を対象に地場産業や伝統工芸の技術を学べるワークショップを開催しています。これらの事業を通して、地元の職人との交流を促進することにより、こどもたちの地域の伝統工芸に対する関心を高め、次世代がその技術を継承したいという意識を育むため、引き続き取り組みをすすめます。（商工振興課）

市内で暮らす小中高生や、市外在住の市出身の若者に対し、市内で活躍する出身者（Ｕターン者）の姿を発信することで、「将来高山に戻りたい」という気持ちの醸成や、「高山市に戻ってくる」ことをごく自然に選択肢の一つとしてもらえるよう、取り組んでいます。（ブランド戦略課）

【協賛企業賞（㈱高山グリーンホテル提供 ホテル商品券１万円）】

しも はた
下畑 じゅんぺい
淳平さん

➤ 市の課題

高山市は高校卒業したらほとんどの人が市外、県外に行ってしまう、そのまま就職することが多いと思います。私も大学に行くために京都にいますが高山に帰省するとやっぱり良い人ばかりでいい町だなと帰ってくるたびに思います。また帰ってきたいと思える街づくりや、他の地域より優しい人たちが多い街だと思うので子育てしやすい街、若者が帰ってきて働きたいと思える会社を増やすことが大事なのではないかと感じました。

➤ アイデア

大学の設立、なくなった映画館を作る、移住者、帰ってきた人には補助金

➤ 担当課コメント

映画館の誘致はこの地域の人口規模では簡単ではないですが、文化団体や図書館などと連携して市内で映画鑑賞の機会を作るなど、身近なところで映画を楽しむことができるよう取り組んでいます。また、モンデウスパークでは、定期的な映画上映を行っているほか、施設を借りて自分たちの好きな映画の上映会をすることもできます。（生涯学習課）

市に移住された方に対しては、一戸建て住宅の購入や改修、賃借に係る費用に対する補助や、国・県と合同し東京圏からの移住に対し支援金を交付するなど、様々な補助事業を実施しています。これら制度の条件や内容、周知方法について、社会情勢等も踏まえながら適宜見直し、引き続き適切な運用を図ります。（ブランド戦略課）

新たに地元就職した若者（地元の高等学校等を卒業しそのまま地元就職した若者含む）へ支援金10万円、就職の際民間アパートを賃貸した若者へ家賃等初期費用の助成、5年間の奨学金返済支援を実施しています。（雇用・産業創出課）

【協賛企業賞（㈱飛騨ハム提供 飛騨牛ハンバ具ー3種セット）】匿名希望

➤ 市の課題

- ①若者の高山市民の遊び場について
- ②若者向けの講座を増やす
- ③高山市の仕事について
- ④子ども、高齢者だけでなく、若者の為に
- ⑤自然を生かした街に
- ⑥アパレルショップを増やす

➤ アイデア

①観光向けの場所が多い高山で、学生生活は決められた場所でしか遊んでませんでした。バイトができなかったりで、カラオケにしろボーリングにしろ高山の学生にとっては本当に高い値段で、お金のかからない遊びばかりでした。地元市民が楽しめる原宿の様なカフェや食事、カラオケ、食べ歩きなど、車を使わずにでも行けて気軽に、お金をあまり使わず遊べる色々揃った通りや場所が1つあればいいなと思います。

誕生日のお祝い、イベント行事など、学生時代はどこでしょう、と悩む事が多々ありました。なので、カラオケルームのように、気軽に短時間でも居られる様な、貸出の部屋があったらなと思います。ホテルでもなく、カラオケでもなく、数時間だけその空間で自由に過ごせるという場所は学生にとったらすごくいい場所だと思います。

②高齢者向けのパソコン講座などばかりで若者向け、現代向けの講座がまだ発達していない為、動画編集や副業などの講座を増えたらなと思います。

③観光業などサービス業が多いのももっとサラリーマン、会社員として働ける仕事を増やせたら地元に戻る人も増えるんじゃないかなと思います。

④映画館が壊れたり若者の遊び場がどんどん減っているので映画館は絶対必要だと思うし、チェーン店を増やしてほしいなと思います。

⑤高山は一番大きな市なくせに、森林ばかりです。だからこそ、自然が溢れたグランピング施設を作ったり、自然を生かした大人も子供も楽しめるアスレチック施設を作ったり、サイクリング場を作ったり、上高地のような自然を何時間も堪能し、触れ合える場所があったらいいなと思います。

⑥高山にはアパレルショップが少ないと思います。「服どこで買ってる？」と聞くと大抵が「ネット」と言います。婦人向け、子供向けはたくさんありますが、若者、学生に向けた服屋が少ないという印象なので増えたらいいなと思います。

➤ 担当課コメント

（②について）市図書館「煥章館」にて、若者向けの資産形成講座を開講しているほか、アンケートや本の貸出状況から若者世代に人気の本を集めた「Z世代のための1冊」コーナーを設けています。また、動画編集や副業など、ニーズの高い分野について選書を強化しています。

また、勤労青少年ホームでは、15歳以上35歳以下の若者を対象にした、ドローン操作などの講座を開催しています。

今後も、いただいたご意見も参考に、若者の皆さんのニーズの高いテーマの講座やイベントが開催できるよう、検討していきます。

（④について）映画館の誘致はこの地域の人口規模では簡単ではないですが、文化団体や図書館などと連携して市内で映画鑑賞の機会を作るなど、身近なところで映画を楽しむことができるよう取り組んでいます。また、モンデウスパークでは、定期的な映画上映を行っているほか、施設を借りて自分たちの好きな映画の上映会をすることもできます。（生涯学習課）

（①③⑥について）チェーン店などの域外資本企業が増えることで、地元住民や観光客にとって便利な買い物環境が整い、日常生活がより快適になります。また、競争の促進により、消費者はより良い商品やサービスを選べるようになり、新たな雇用も生まれ、地域経済の活性化が期待されます。

しかし、全国どこにでもある店舗が増えることで、高山の「らしさ」が失われてしまう懸念もあります。高山には豊かな歴史や文化、伝統があり、それを活かした商業活動が地域の魅力を際立たせています。地元の伝統工芸や特産品を扱う店舗、地元食材を使用した飲食店、地域の風土を感じさせるデザインの店舗などが、多くの観光客を惹きつけています。

市民の利便性向上や競争促進を図りつつ、高山の独自の魅力を守ることが重要であり、地域の魅力を活かした店舗やビジネスを育成し、地域経済を活性化させることが、高山のブランド価値を高め、持続可能な発展に繋がると考えています。（商工振興課）

（⑤について）高山市では、他都市との交流事業や、市内の小中学校が実施する、木工体験（グリーンウッドワーク）や林業体験など、森林を活用した事業への支援や連携を行い、森林に触れる機会づくりを推進しています。（森林政策課）

【協賛企業賞（㈱飛騨ハム提供 飛騨牛ハンバ具ー3種セット）】^{ほらぐち} 洞口 ^{こはる} 小春さん

➤ 市の課題

若者の集まる場について

➤ アイデア

若者むけの場所がもう少しあるといいと思います

➤ 担当課コメント

24 ページ総合政策課コメントをご覧ください。

【協賛企業賞（㈱ひだホテルプラザ提供 オリジナル レトルトカレーセット）】

➤ 市の課題

高山市の課題は、成人のスポーツ実施率の低さだと思う。私は大学でスポーツを専攻しているが、講義を受講したり実際に調査を行っていく中で、高山市の成人のスポーツ実施率が非常に低いということを学んだ。スポーツは身体の健康に良い影響を与えるだけでなく、ストレス発散やスポーツを通じて地域社会との繋がりを創出するなど、様々な効果を得ることができる。高山市は日本一の面積を誇り、自然に囲まれた環境や多様なスポーツ施設があるのにもかかわらず、このような現状であることは非常に勿体無いと私は感じた。私自身も長年高山の地でスポーツを続けてきた。そのためスポーツを専攻している大学生として、さらにはスポーツを愛する高山市民としてこの課題は解決したいと思っている。

➤ アイデア

私は市民がスポーツを始めるにあたって、市がそれをサポートしてくれるような仕組みがあればいいと思っている。具体例としてはスポーツ用品を買う時の初期費用を一部負担したり、ジムやプール、ダンススタジオといったスポーツ施設を利用する際に市から補助金が出るようにするなどである。スポーツを始める際、金銭面というのは必ず障壁になると私は思う。市がスポーツを始めるためのハードルを少し下げるサポートをしてくれれば、市民はスポーツに取り組みやすくなり、結果的にスポーツ実施率も上昇するのではないかなと思われる。「スポーツを愛する人に優しいまち」に高山市がなってくれればいいなと私は思う。

➤ 担当課コメント

市では、市民の方が市のスポーツ施設（ビッグアリーナ等）を利用する際に、事前に利用団体の登録をしていただくことで、使用料を半額で利用することができます。

令和6年度はエア遊具が楽しいプールや新しい遊具を備えた赤保木交流広場がオープンしたほか、人工芝を備えた市内で初めてのサッカー場となる大ハグラウンドサッカー場がオープンしました。また、今後野球場の令和9年度の供用開始を目指し、整備を進めています。

市民がスポーツをする、観る、楽しむことができる環境づくりに取り組んでまいります。（スポーツ推進課）

【協賛企業賞（ユーターンシップサポーターズ提供 木製時計）】匿名希望

➤ 市の課題

遊ぶ場所が少ない。外で遊んでいる人が減ってきている。高齢者までが楽しめるものがない。

➤ アイデア

体育館の無料開放日を設けたり、公園などでスポーツや運動するための道具を貸し出したりしたら良いと思う。ラウンドワンのスポッチャであるようなバブルサッカーができるボールがあったら外や体育館ででき、既存の施設を生かせると思う。また、公園にもっと健康器具を入れたら高齢者までもが気軽に運動ができると思う。

➤ 担当課コメント

飛騨高山ビッグアリーナでは毎月1回程度、夜間に無料開放日を設け、自由に利用いただくことができるほか、ボッチャ等の軽スポーツ体験ができる軽スポーツ広場を開催し、幅広い世代に体を動かす楽しさを体験できる機会を提供しています。

令和6年7月にリニューアルオープンした赤保木交流広場では、夏はエア遊具が楽しいプール、春と秋には幼児用プールを水辺空間として無料で利用できるほか、冬は雪遊びが楽しめるなど、年間を通じたこどもの遊び場として、また、幅広い世代が体を動かしながら楽しめます。

モンデウスパークでは、通年で家族や仲間など幅広い世代が楽しめる施設運営を行っています。年間を通じて、エア遊具が楽しいキッズコーナーや、市図書館位山分室での読書、スクリーンでアニメや映画が楽しめるモンデウスシアター、無料Wi-Fi、充実したカフェでゆっくりと楽しむことができます。グリーンシーズンでは、ドッグランや軽スポーツ用品の貸出のほか、音楽演奏をはじめイベントも開催されています。（スポーツ推進課）

公園施設としては、これからさまざまな活用が望まれていくことになることを想定していますが、公園にはそれぞれの個性がその特色を生かしながら設置されています。今後は、スポーツ施設や健康器具の設置などそれぞれの施策に併せて対応していきたいと考えています。（都市計画課）

【協賛企業賞（飛騨産業(株)提供 アロマセット）】^{いわた}岩田 ^{ま い}真依さん

➤ 市の課題

若者の働き手不足

➤ アイデア

地元である高山の住みやすさや自然などの魅力を伝え、高山に住み続けるメリット(地元支援金など?)を作り、伝えていくことで、都会へ移る若者が減少すると思います。また、娱乐场所を充実させていくことも若者が引き寄せられるポイントへと繋がると思います。ですが、充実させる為の費用や人件費がかかることや、需要が高くないことから、実現させる為には多くの難点があります。需要を増やす為には、大学を作り、若者を増加させることで娱乐场所の需要が高まり、働き手も増加すると思います。大きな大学が無いのが、若者が高山を出る大きな理由の一つだと考えている為です。大学を作ることも簡単では無いですが、そうして地元を活性化させより良い住みやすいまちづくりに繋がっていけば良いなと思います。

➤ 担当課コメント

新たに地元就職した若者（地元の高等学校等を卒業しそのまま地元就職した若者含む）へ支援金10万円、就職の際民間アパートを賃貸した若者へ家賃等初期費用の助成、5年間の奨学金返済支援を実施しています。（雇用・産業創出課）

【協賛企業賞（飛騨産業(株)提供 アロマセット）】匿名希望

➤ 市の課題

子育て支援金

➤ アイデア

現在、高山市では物価高騰対応重点支援給付金が住民税非課税世帯や住民税均等割のみ課税世帯を対象に行われていますが、実際は日に日に物価が高騰が続いており、対象じゃない世帯でも生活が苦しいのが現状です。

対象じゃない世帯にも支援金を行うなど高山市に住む全ての子育て世代が住みやすいと感じる政策を行っていただきたいと思います。

また、高齢者や他の世代でも物価高騰に悩んでおりますので対象世代範囲を広げる必要性もあると思います。

➤ 担当課コメント

一般論として、市が行う各種施策には、国が全国を対象に実施するもの（児童手当など）、県が県下を対象に実施するもの（第二子以降出産祝金など）、市が独自に実施するもの（子育て支援金など）があり、国や県が主導する施策は、国県の補助金等（使途が定められた特定財源）を活用して実施できるようになっています。近年、物価高騰の影響を大きく受ける低所得世帯等の支援として、国が費用を負担する全国一律の給付金事業が繰返されており、それらの窓口を市が担っています。

一方で、それらの国費には、各市の実情に応じた裁量を活かせる予算枠が別に設けられる場合も多いため財源として活用したり、市の独自予算（使途が決まっていない一般財源）を投入することにより、当市における各種の経済対策を推進しています。（全世帯への給付、子育て世帯やひとり親世帯に限った給付、プレミアム付き商品券、福祉・介護・交通・畜産事業者への支援 など）

物価高騰をはじめ現下の厳しい社会経済情勢に対しては、給付金をはじめ対処療法的な施策のほか、労働者の所得水準の向上（賃上げ）や成長型経済への移行など抜本的な施策も必要です。

特に、少子化による人口減少は大きな課題であり、皆さん方のような若い世代が安心して子どもを産み育てられるまちづくり、戻ってきたい移り住みたいと思ってもらえるまちづくりが欠かせないと捉えていますので、市民や事業者の皆さんと意識を共有し、一緒になって様々な取組みを進めていきたいと考えています。（こども政策課）

【協賛企業賞（飛騨産業(株)提供 アロマセット）】ペンネーム：おにぎりさん

➤ 市の課題

医師不足

医療格差

自分の経験から、何か大きな病気にかかるとうち市などの遠くの病院を紹介され、通院、入院しなければならない。

医師の高齢化 いくつかのかかりつけの病院は医師の高齢化によって閉院してしまった

➤ アイデア

医師の人材確保のためにまず、将来を担う学生に興味を持ってもらうために、現役の医師に講話を行ってもらう。医師になりたいと希望している子に実際の医療器具を体験する機会を作ることによって将来なりたい職業に対するイメージの構築と学習意欲の向上を目指す。

大きな病院との連携で医療格差を減らす。

例えば医療機器の導入。

大学進学のために高山を離れることがあるが卒業後戻ってきたいと思ってもらうために、地域全体で医師の働く環境を整える。このことが医師の高齢化の対策になると思う。たとえば、福利厚生の実施が挙げられると考える。

さらに、AI やデジタル機器を使用した効率よい診療体制をつくることで、医師 1 人の負担が減少し、患者も何時間も待合室で待つことが少なくなると考える。

➤ 担当課コメント

高校生を対象としたメディカルハイスクール事業を令和 3 年から開催しており、現役医師による講義や手術縫合体験、高山赤十字病院・久美愛厚生病院における病院施設内での体験型のカリキュラムなどを実施しています。実際に参加した高校生からは、医師をはじめとした医療職を目指す気持ちが強くなったとの意見をいただいたり、実際に受験の面接対策等にも活用されています。

市内中核病院で導入される高額医療機器に対する支援を行っています。機器によっては、病院に関わる飛騨地域の 3 市 1 村で協力して支援を行うなど、関係自治体で連携した取り組みを行っています。

岐阜大学医学部地域枠コースでは、在学中の修学資金を支給しますが、卒業後市内または飛騨圏域の病院で 6 年勤務すれば修学資金の返済が免除されるという制度を行っており、現在 9 名の学生がこの制度を利用しています。

医学生から指導医に渡るまでの研修や学会参加等への支援を行っています。福利厚生の実施に関しては、子育て中の医療従事者が安心して働くことができるよう、病院内に保育所を設けた場合の運営費に対して支援しています。また、医師が働きやすい環境とするために学び等への支援を行っています。

医療 DX を進めるために、今年度、へき地でオンライン診療を可能にする移動診療車を導入しました。また、岐阜大学等の高度医療機関と市内中核病院をつなぐコミュニケーションツール等の整備を支援し、遠隔で手術支援や助言を受けられるようにすることで、できるだけ市内で医療が完結できるような仕組みを構築しているところです。（医療政策課）

【協賛企業賞（株）和井田製作所 ノベルティ】^{たなか}田中 ^{ふう か}風花さん

➤ 市の課題

誰もが楽しく過ごせるまちづくりが課題だと考える。昨年は子どもに焦点を当てたため、今年はお年寄りの方に焦点を当てて課題を少しでも解決できたらいいと思う。

私は高山にはお年寄りの方々が無料で気軽に集まれるような憩いの場が少ないように思う。一人暮らしのお年寄りの方やデイサービスなどを利用していない方は同年代の方との交流の場がない。だが、街にそういった場を設けたとしてもお年寄りの方が実際にその場へ行くとなると送迎が必要になってくる。そのため、お年寄りの憩いの場の設置の他に実際に使用してもらうための運営も考えなくてはならない。例えば市は送迎バスと担当の窓口を設け、利用したいお年寄りは市の窓口で予約をして、バスで迎えに来てもらって利用をするというのはどうだろうか。そのやりとりの中でお年寄りの安否確認にも繋がるのではないかと考える。こうして誰もが楽しく過ごせる街をつくっていききたい。

➤ アイデア

お年寄りの方々が利用できる場には車椅子や手押し車で入れるようにスロープを設置したり移動しやすいように広いスペースを確保したり、各地に手すりを設置した方がいいと思う。また、椅子は背もたれとひじ掛け、座布団がいていると思う。お茶やお水が無料で飲めるサービスもあるといいと思う。

しかし、お年寄りの方々が無料で気軽に集まれる場を設けたとしてもお年寄りの方々の場合、送迎が必要になってくる場合が多い。そのため、まずは市に担当の窓口を設置し、担当の職員を配置し、送迎バスの手配をしなければならないと思う。そうすることで利用したいお年寄りの方は市の窓口へ電話して予約し、バスで迎えに来てもらうことで憩いの場を利用できるのではないかと考える。電話ひとつで利用することができるのでひとり暮らしをしているお年寄りの方々にとっても気軽に利用できるのではないかとと思う。

➤ 担当課コメント

市では、各地域に福祉センターやいこいの家を設置し、高齢者に無料で利用いただいています。また、高山地域には空き店舗を活用した交流拠点を3か所設置し、高齢者を中心に活用いただいています。

こうした高齢者が多く利用する施設は、高齢者が利用しやすいよう配慮して整備をすすめる必要があると考えており、施設整備で対応できない部分は、アイデアに記入いただいたような配慮も大切です。

おひとりで公共交通機関を利用できない高齢者等の移動については、病院や福祉サービスなどの場所への送迎を行う福祉有償運送事業があり、近年利用が増加している状況です。（高年介護課）

移動については、広大な市域を有する高山市において特に支所地域で課題であるとのご意見をお聞きしており、運転手不足の状況もあるなか、地域の助け合いなどによる移動手段の検討も必要になると考えます。施設送迎については、各施設において各々実施しているところですが、公共交通における高齢者への移動支援として、6,000円で1年間、のらマイカー（地域バス）、まちなみバス（中心市街地バス）、匠バス（観光特化型バス）が乗り放題、タクシー1乗車100円引きとなる「おでかけパスポート」の販売を行っています。（都市計画課）

【協賛企業賞（㈱和井田製作所 ノベルティ）】匿名希望

➤ 市の課題 アウトドアについて

➤ アイデア

今はsnsを見ている若者を中心にアウトドアが好きな方が増えているなど感じる事がよくあります。ここで高山の強みである自然を生かして、アウトドアが盛んな街にするために、いま高山にあんまりないアウトドアショップ、キャンプ用品店を作ったり、キャンプ場を増設したり、アウトドアイベントを実施したりスノースポーツ場を充実させたりして、もっともっと若者を呼び込んで盛り上げて行けばいいと思います。そのためにも、最近ドンキができるように、もっと利便性の高い街にしていければいいなとも思います。（とくに上宝はAコープがなくなるということでしょう？）

➤ 担当課コメント

高山市では「乗鞍山麓五色ヶ原の森」を運営しています。数多くの滝や池、手つかずの原生林など貴重な自然資源の保護と利用を図るため、ガイド同伴での利用を義務付けているネイチャートレイルエリアであり、市民が利用しやすいよう令和7年度より市民割引を拡充する予定です。また、令和6年7月にリニューアルオープンした奥飛騨ビジターセンターでは、地域の自然を活かした体験プログラムや各種ツアーなどを週末を中心に開催しています。

今後も自然が豊富な高山の特徴を活かし、若者が魅力とを感じる取り組みや、アウトドアショッピング誘致の機会がありましたら、検討してまいります。（環境政策課）

奥飛騨温泉郷地域においては、5つの温泉郷、2つのキャンプ場、スキー場、オクヒダバギー、スノーシュートレッキングなど四季折々の大自然に触れていただけます。新穂高ロープウェイの山頂駅の売店では登山用品を購入することができます。

上宝町、奥飛騨温泉郷とも商店が少なく利便性が良いとは言えませんが、地元小売店が地域の特性を生かした商品を販売しており、移動販売車や注文により商品を配達する事業者もあるため、地域住民は安心して生活を送ることができています。（上宝支所）

モンデウスパークでは、通年で家族や仲間など幅広い世代が楽しめる施設運営を行っています。

年間を通じて、エア遊具が楽しいキッズコーナーや、市図書館位山分室での読書、スクリーンでアニメや映画が楽しめるモンデウスシアター、無料Wi-Fi、充実したカフェでゆっくりと楽しむことができます。グリーンシーズンでは、ドッグランや軽スポーツ用品の貸出のほか、音楽演奏をはじめイベントも開催されています。ウィンターシーズンでは、スキーやスノーボードを楽しむことができ、エスカレーター（バンビーノ）を備えたキッズゲレンデや、林間コースなど、初心者でも利用しやすいゲレンデがあります。市内高校生以下はリフト一日1,000円利用できるほか、リフト券とレンタルをセットにしたお得なバックセット（手ぶらパック）を6,000円で提供するなど、お得に利用することができます。（スポーツ推進課）

【協賛企業賞（㈱和井田製作所 ノベルティ）】^{さいとう}齊藤 ^{ゆい}結衣さん

➤ 市の課題
若者の地域参画

➤ アイデア

少子化に伴う課題に対して、高山版ワーキングホリデーの実施を提案する。高山市では、就学や就職といった理由から、高校卒業と同時に高山を出る若者が多く、若者の人口割合が圧倒的に低い。高等教育機関が多い地域では、地元出身者に限らず学生がボランティアやサークル活動の一環として地域に関わる機会が多く、彼らが定住しないとしても、大学がある限り、学生は地域に参画し、地域は活気に満ち溢れる。高山市では、UターンやIターンで高山に住む若者を増やすための政策を行っているが、定住しなくても地域に参画する若者を呼び込むことができれば、高山のよりよい発展につながるのではないだろうか。

そこで私は、全国の学生が長期休暇などを活用し、高山で働きながら休暇を過ごすことができる、ワーキングホリデーの実施が効果的だと考えた。このシステムが定着すれば、

高山への安定した若者の流入とその参画が見込めるのではないだろうか。

➤ 担当課コメント

学生が長期休暇などを活用し高山で働く仕組みは市では作っていませんが、ユーターンシップサポーターズ（事務局：高山商工会議所）と意見交換をしながら、インターンシップを受け入れる企業に対する助成を実施するとともに、学生に向けた周知を連携して実施しています。また、市内のNPO法人では、夏休みに市内の農家で大学生が農業体験受け入れをする「ワーキングホリデー」の取り組みを行っています。

「おてつたび」のような、地方に興味があり、地方で短期間働きながら地元の人と交流したい方が仕事を見つけるためのサイトを活用して人材を雇用した際に、事業者支援を行っています。この制度では、単なる人手不足解消ではなく、「飛騨高山で働きながら、人と交流し、自然や文化に触れ、飛騨高山を新たなふるさと「帰る場所」と感じていただけるようなファン（関係人口）を増やす」ことを目的としています。（雇用・産業創出課）

【協賛企業賞（株）和井田製作所 ノベルティ】寺田^{てらだ} 伊吹^{いぶき}さん

➤ 市の課題

観光地としての認知度。ある程度は有名ではあるが、まだまだ飛騨高山を知らない人が特に10代20代の若者に多い。また、長期滞在する人も少ない。

➤ アイデア

退屈で仕方なかった私の故郷。都会に出て流行りの服を着て華やかな生活をするのが夢だった。

今、私は沖縄に住んでいる。高山にはない綺麗な海と夜も眠らない観光地に囲まれて生活して感じるのは懐かしさ。春の空に舞う桜の花びら、夏の夜に聞こえる虫の声、秋には黄金に輝く田んぼ、冬の凜とした空気、橋の下を悠々と流れる飛騨川に、目線の先に必ずあった山々は私の新天地では見られない。そんな懐かしい景色は私を故郷へ向かわせる。

今の私には分かる。高山は暮らしと自然が共存する美しながらも懐かしい街なのだ。開発された現代社会から離れて一休みしたい時、誰もが足を運びたくなるような「日本の実家」になってほしいと願う。そこで、江戸時代にあった宿場町を思わせる宿泊施設街の建設なんてどうだろうか。忘れてしまいがちな古き良き暮らしを豊かな自然の中で経験できるなら国内外の観光客数増加、長期滞在などにもつながるのではないだろうか。

➤ 担当課コメント

これまで多くの観光客を受け入れてきた高山市の強みは、先人たちにより脈々と受け継がれてきた優れた伝統文化、景観、食文化などの財産、そして飛騨山脈や白山、御嶽山などに囲まれた豊かな自然から生み出される清らかな水と農林畜産物、食などのコンテンツに加え、おもてなしの心で旅行者を暖かく迎え入れるなど、観光を支えてきた地域住民の皆様これまでの努力が挙げられます。また、「古い町並」に観光客が多く立ち寄られるのは、そこに「日本の原風景」が感じられるからであると考えられます。新たな施設の建設には様々な関係者との調整等が必要になりますが、今後も地域住民の方々と協力し「日本の原風景」の維持保存に努めます。（観光課）

【開発された現代社会から離れて豊かな自然の中で一休みできる施設】

- ・すのまたふるさと学校（清見町巢野俣）…豊かな自然の中で生きた山村の文化を体を動かして体験できる宿泊研修施設。
- ・おっばら自然体験センター（清見町大原）…森と清流に囲まれた山里で自然を体験できる宿泊研修施設。（清見支所）

奥飛騨温泉郷地域においては、温泉、キャンプ、スキー、オクヒダバギー、スノーシュートレッキングなど四季折々の大自然に触れていただけます。海外からの観光客の中には1週間滞在し、新穂高ロープウェイなどの観光のほか、何もしないことを楽しむ方もいらっしゃいます。また、期間限定のイベントになりますが、囲炉裏カフェなど囲炉裏のある古民家で地元住民との交流を楽しんでいただけます。（上宝支所）

丹生川地域にも古民家を改装した民泊など、古き良きを活かす気風が出て来ているところ です。今あるものを客観的に、高山市外からの視点で考え直し、地域を盛り上げていくことにつなげられればと思います。（丹生川支所）

【協賛企業賞（㈱和井田製作所 ノベルティ）】匿名希望

➤ 市の課題

人口減少や少子化

住み続けたい、高山市に戻りたいと思うまちづくり

➤ アイデア

高山では仕事の選択肢が少ないために、市外にでてしまう人も多くいるため、就労環境の整備を行ったり、少子化対策のために子育て支援が必要であると考えます。

また、高山市には観光で多くの方が訪れる素敵な場所だと思いますが、観光だけではなく、住みたいと思ってもらえるように、高山市で行っている政策をSNSでPRしたり、他地域の人も参加だけでなく運営でも関わられるようなイベント(ウルトラマラソンみたいなもの)をすることで、足を運ぶ機会も増え、高山市への関心も高まると考えられ、住むきっかけになるといいなと思いました。

➤ 担当課コメント

SNSを通じて高山市での日常生活の様子を発信し、観光のみならず、住む場所としての魅力を認知いただけるよう、取り組んでいるところです。

また、移住者同士が交流を深め、移住後の交友関係を広げていただくことを目的に「ツラッテ」を設けています。高山祭の屋台見学や、四十八滝の散策、地酒に関する講座など、様々なイベントを通じて、高山市の伝統や歴史、文化の魅力に触れるとともに、交流を深めていただいています。

今後は移住者同士だけでなく、市民や、移住に興味のある市外在住者などにも参加いただくことを検討し、より広く交流を深めつつ、様々な方に高山市の魅力を知っていただけるよう取り組んでいきます。（ブランド戦略課）

ご意見をいただきましたように、この街に住みたいと思っていただけることが非常に重要であると考えています。今年度、市では国内外から選ばれ続ける、住んでよし、訪れて

よしの「国際観光都市飛騨高山」の実現に向けて、観光を柱にした地域経済から、持続可能な地域づくりのために観光を活かすまちづくりをすすめる方針を策定しました。この方針に基づき、官民一体となって魅力の発信に努めます。（観光課）

全応募作品

匿名希望

➤ 市の課題

LGBTQ についての理解

➤ アイデア

LGBTQ の人たちが、当たり前のような存在として扱ってもらえるような街になればいいなと思います。僕はゲイで、男性が好きだと気付き始めたのが、小学校4年生の頃でした。でも、世の中の普通じゃないと感じ取っていたため、同じ学年の男の子のことを好きになっても、好きとは言えませんでした。周りがどんな反応をするのかとても怖かったからです。高校卒業まで誰にも絶対に知られないように、仕草や言葉遣いも普通の男性にみられるように意識していました。同じ学年の中にはホモはキモイとか言っていて、ゲイという理由で気持ち悪いと言われたり、冷たい行動をとられると、自分の人格自体が否定されているような感じでした。高山市にもLGBTQの方々はいると思います。気づいていないだけで、隣にいる人が、LGBTQの方かもしれません。その方たちを含め誰もがありのままの自分でいられる制度やイベントを促進してほしいです。

➤ 担当課コメント

様々な価値観が共存している昨今、男性や女性という枠ではなく「誰もが自分らしく生きられる社会」という多様性の考え方が広がりつつあります。性別や国籍、障がいの有無などに関わらずお互いを尊重し合える社会の構築を目指す必要があります。

岐阜県では、LGBTQ や事実婚の方を対象としたパートナーシップ宣誓制度を導入しており、市では、県で交付される宣誓書受領証を提示することで受けられる行政サービスを積極的に提供する方針です。また、多様性講演会を開催するなど、LGBTQ に対する差別や偏見をなくし性の多様性について理解を広げるための取り組みを行っています。LGBTQ について、高山市ではまだ認知度が低いかもしれませんが、行政サービスについてご相談にいらっしゃる方もいらっしゃいますので、必要な情報が市民に届くよう、周知や啓発に引き続き取り組んでいきます。（生涯学習課）

みやした なつみ
宮下 菜摘さん

➤ 市の課題

①子どもの遊び場について

②少子高齢化

③市民の憩いの場となるところが少ない

④以前と比べると人口が少なくなったことで地域の繋がりが薄くなってしまっていること

➤ アイデア

上記であげたことを考えると、高山市民にとって共通の”楽しいこと”が少なくなってしまうのでは…と思います。また高齢化ももっと進むことで、高山から出ることが難しくなっていく方も増えるでしょう。それに子育て世代の方も、忙しさから遠くに出かけることが難しいと考えている方もいらっしゃるはず…。だからこそ、高山で、高山にしかできないことを楽しんでほしい！そんな思いから老若男女問わず集ることができるイベントを開催してほしいです。高山には豊かな自然と素晴らしい食べ物があります。それらを紡ぎ合わせ、地域社会の繋がりも強くしたい。東北には親睦を深めるために、屋外で鍋を食べる芋煮会というものがあるそうです。それに倣う(?)ように、例えば「高山の食材を使った料理をみんなで食べよう！会」（カレーとか…）などはどうでしょうか？同じものをみんなで食べることで高山の”食”“人”“土地”を繋ぎ合わせてみませんか？

➤ 担当課コメント

各まちづくり協議会や市民活動団体などでは、地域住民がつながり地域コミュニティの維持・活性化に向けた取り組みが進められています。

○主な事業

（まちづくり協議会）

- ・文化祭、スポーツ大会、リクリエーション（焼き芋会、ハイキングなど）、各種講座など

（市民活動団体）

- ・NPO 法人活エネルギーアカデミー…子ども大学たかやま（炭焼き体験、各種体験など）を開催

- ・高校生市民活動団体 MAP' 実行委員会…音楽フェスを開催（協働推進課）

飛騨は冷涼な気候やきれいな水などの風土を活かし、国内でもホウレンソウやトマト、飛騨牛などをはじめ有数の産地となっています。

これまで高山市地産地消推進会議を中心に飛騨産の農林畜水産物の販売や飛騨で採れた農産物等を材料にしたいろいろな食べ物などを集めたマルシェを開催してきたところです。

ご提案のアイデアは地産地消推進会議などにお伝えさせていただきます。（農務課）

匿名希望

➤ 市の課題

観光業について

➤ アイデア

外国人観光客向けの指差し会話シートを高山市で制作、配布する。朝市などでの買い物や、飲食店などで困っている人がいると思う。飛騨そば、朴葉味噌の食べ方を説明する中国語、韓国語、英語などのシートがあると便利。

主に子ども向けのワークショップを定期的に行う。手芸や料理、木工、伝統工芸など。対象年齢も、年少以上～、小学生、中学生、高校生向け、などと分ける。例えば、さるぼぼづくり、飛騨さしこ体験、飛騨春慶塗り見学、朴葉味噌を食べてみよう、など。

企業を巻き込んで、会社見学、職場を見学できる機会を作って、地元就職を考えるきっかけにする。

地元の学生向けに、飛騨高山の観光案内ツアーをするのもいいと思う。人力車に乗ったり、老舗飲食店で食事をするなど。高山のいいところを高山の子どもたちに伝えていきたい。

➤ 担当課コメント

外国人旅行者の受入にあたり、市内店舗においては、翻訳アプリの活用等によりコミュニケーションの充実に努めておられます。また、日本政府観光局などの様々な機関において、多様な旅行場면을踏まえた多言語指さし会話シートを制作されています。いただいたご意見を踏まえ、それぞれの事業者様の困りごとに応じた各種ツールをご紹介したいと思います。（観光課）

幼少期から地元の職業や伝統工芸産業に触れる機会を提供することにより、こどもたちは自分の地域や文化、産業への誇りを持ち、将来的に地域への愛着を深めることができます。これにより、地元就職につながることを期待されます。

市では、地域の事業者や関係団体と連携し、小中学生を対象に地場産業や伝統工芸の技術を学べるワークショップを開催しています。これらの事業を通して、地元の職人との交流を促進することにより、こどもたちの地域の伝統工芸に対する関心を高め、次世代がその技術を継承したいという意識を育むため、引き続き取り組みをすすめます。（商工振興課）

匿名希望

➤ 市の課題

防災意識の向上について

➤ アイデア

私が提案する高山へのアイデアは、中高生を主な対象とした防災学習の推進及び防災士資格を取得する学生の増加のための取り組みです。高山市では、多くの災害の発生が考えられます。私自身も小学生の頃から学校の授業で防災学習に参加・体験してきましたが、学んだはずの知識はもうほとんど覚えていません。その原因は、防災学習は忘れた頃に行われる程度の頻度でしか開かれないためだと考えています。例えば今、高山市で災害が発生した場合、遠方に進学している我々に出来ることは多くありません。その場にいる中高生、若い世代がまち・人を守らなければなりません。

そこで提案するのが防災士の育成です。防災士が増加は、災害発生時に身を守る知識のある人の増加を意味します。埼玉県戸田市では中学生を対象に、防災士資格取得にかかる費用の補助を実施しております。資格を持つことは自分自身の強みの一つにもなるのではないかと考えます。

➤ 担当課コメント

防災士について、市では毎年市民向けに「防災リーダー育成講座（防災士養成講座）」を開催し、地域防災の中心になる防災士の育成を進めています。（講座受講料は無料、防災士試験受験は個人負担）毎年50名前後の市民が受講し、その中には小中学生の受講者も見られます。（令和6年度も小学生1人、高校生2人が受講）

また、講座受講者に対しては、その後フォローアップ研修も実施しており、実際に現場

で活躍できる人材の育成を進めています。（危機管理課）

こ さか てった
小坂 哲太さん

➤ 市の課題

都市部からの滞在者と地域住民へのあらたなコミュニティ形成の場

➤ アイデア

私は自然や伝統文化に触れられ、地域の人々や子供同士が新たなコミュニティを形成できる「スローライフ体験エリア」を提案します。地域にある古民家を宿泊施設などにリノベーションし、滞在者が農業や伝統文化、郷土料理に挑戦できるようにプログラムを組みます。また、SDGsの一つでもある環境への理解を深めるためにもリサイクルや省エネ、木材といったことに関わるワークショップを提供します。古民家のリノベーションと同時にこのような体験型の活動を提供することで、地域の人々の新たなコミュニティ形成はもちろん、都市部から来た人々とも新たな交流ができます。そして、農業や伝統文化に関わる人々とも交流ができることで、地域の人々には今の生活がどれだけ自然に恵まれているか再確認する機会を提供することができます。このように、高山市の持つ地域資源や文化を活かしつつ、スローライフを体験してもらうことで新たな価値を見出せると考えます。

➤ 担当課コメント

市では、移住者同士が交流を深め、移住後の交友関係を広めていただくことを目的に「ツラッテ」を設けています。高山祭の屋台見学や、四十八滝の散策、地酒に関する講座など、様々なイベントを通じて、高山市の伝統や歴史、文化の魅力に触れるとともに、交流を深めていただいています。

今後は移住者同士だけでなく、市民や、移住に興味のある市外在住者などにも参加いただくことを検討し、より広く交流を深めつつ、様々な方に高山市の魅力を知っていただけるよう取り組んでいきます。（ブランド戦略課）

【スローライフ体験】

・彦谷の里（清見町夏廐）…市民農園付き別荘（クラインガルテン）を20棟整備。年貸し。農業に親しみながら地域の人々とのふれあいを通じて豊かな田舎暮らしを体感することが出来る。（清見支所）

匿名希望

➤ 市の課題

事故防止&交通安全

➤ アイデア

2つあって、1つ目は、観光客が最近来ることが多く、嬉しいけれど、観光客の外国人さんは、赤信号で渡ってまう人を見ることが多いことと、2つめは老人さんや、自転車で通る人が居るんですが、横断歩道とか渡らず車の間とかで通る人がいるので、事故防止がいつ起こるのか分からないので、自分の命を守るために、交通安全とかまた学んで欲しいです。

➤ 担当課コメント

1.外国人に対する交通マナーの啓発活動を行っています

外国語パンフレットによる日本の交通ルール（歩行中・運転中）の遵守など

2.交通安全教室を開催しています

保育園（幼稚園）、小学校→横断歩道の渡り方、自転車の乗り方、交通安全のルールなど
長寿会→歩行中・自転車乗車中の事故、道路交通法の改正など

3.自転車をよく利用する中高生に対する運転マナーの啓発活動を行っています

パンフレットによる啓発…自転車の安全点検のお知らせ、自転車運転のルール、保険の加入、ヘルメットの着用促進など

ヘルメット推進リーダー…県からリーダーに委嘱された高山市の高校生がヘルメット着用を推進（協働推進課）

信号を守らないのは外国人旅行者の方に限りませんが、交通ルールに限らず、ゴミやマナーの問題などを含めて、旅行者の皆様にご理解をいただくことが重要であると考えています。

当市においては、今年度、「住んでよし、訪れてよし」の持続可能な地域の実現に向けた観光課題対策事業を実施しており、旅行者マナー対策についても検討を進めています。（観光課）

ペンネーム：ピッコロ犬魔王さん

➤ 市の課題

学校作業療法について

➤ アイデア

私は、高校生の時から「高山市の人口を増やすにはどうすればいいのか？」ということをしずっと考えてきました。その答えは「暮らしやすい・子育てのしやすい街であること」と考えます。それでは、実現させるためには何をすべきか。作業療法士が市民の方と気軽に交流できる場所として、「学校作業療法室」の設置を提案します。

作業療法士とは身体・精神・発達・老年期障害などにより生活で悩みを抱える方を支援する専門家です。他地域の名前を出すのは場違いかもしれませんが、飛騨市では日本初の試みとしてすべての小中学校に学校作業療法室を設置する取り組みを進めています。この取り組みは全国各地から大変注目を浴びており、専門職や教育関係者だけにとどまらず、昨今の”発達障害に対する認知度の上昇”の影響も合わさって一般の方からも目が向けられています。高山市もこの波に乗って、「すべての人が暮らしやすい街」であってほしいと私は望みます。

➤ 担当課コメント

「すべての人が暮らしやすい街」には、もちろんこどもも含まれます。高山市では、どの子にも生きる力を育みたいと願い、様々な視点からこども、保護者の支援に取り組んでいます。スクールカウンセラーや学校心理士を学校に派遣し、こどもや保護者の悩みに寄り添ってアドバイスをしたり、心を育む授業を行ったりしています。また、来年度は不登校の未然防止にむけて、医師が学校を訪問し、こどもの様子を見たり学校から聞いたりしながら支援の方向性を打ち出す取組を計画しています。医療的な視点をもつことで、困り感を抱えるこどもたちにまわりの大人が適切な支援をすることが可能になると考えます。

作業療法士の方が作業療法を通して子どもたちの生活をサポートしていく考えについては、飛騨市などの取り組みについて注目しつつ、こどもの現状を把握し、どのような視点で支援をしていくことが必要かを検討してまいりたいと考えます。（学校教育課）

匿名希望

➤ 市の課題

観光客に高山をより楽しんでもらうために

➤ アイデア

高山に来た観光客に、より楽しんでもらうために、地元民だからこそ知るお店を紹介したチラシを作成し、駅やホテルに置かせてもらいたいと思いました。

Webなどで紹介されているお店は駅近だったり、有名な場所だったりするので1本ずれた道のお店は偶然でしか見つけられません。そこで私は、地元民だからこそ知る、良いお店に足を運んでもらい、来てよかったなと思ってもらいたいと思いました。また、そういったお店こそ紹介することで高山市のお色んなお店が潤うんじゃないかと考えました。観光客の夕食難民が多いと聞くので、そういった方にもいいんじゃないかと思っています。

チラシにはお店の情報(QRコードなど)を掲載し、日本語だけではなく英語などのチラシも作成したらいいんじゃないかと思っています。

➤ 担当課コメント

高山市を訪れる観光客の比率は約3割の方が初めての方で、残る7割の方が2回目以上という、リピーターが非常に多い観光地という特徴があります（観光統計による）。その2回目以降の方々にさらにまたお越しいだくためには、一般的な観光情報だけではなく、地元住民しか知らないような店舗や観光スポットなど、新たな切り口での情報発信が必要であると考えます。ご提案いただきましたような取り組みは非常に重要なことであると考えており、今後の誘客施策の参考にさせていただきます。

また、外国人旅行者に向けては、特にマップアプリの活用が重要であり、今年度も、Google ビジネス・プロフィールの登録促進について、関係機関や地元高校などと連携して取組を進めています。これからも引き続き取組を促進し、より多くのお店を訪れていただくとともに、夕食難民問題の解決に繋げていきます。（観光課）

よしもと はつね
吉本 初音さん

➤ 市の課題

高山市民にとって、自然を感じながらゆっくり過ごせて、気軽に家族や友達と会話したり少し運動したりできる場所が少ないまたは充実していないこと。

➤ アイデア

「ミヤチル」を提案する。ミヤチルとは高山市を流れる宮川でチル(落ち着く時間を過ごすこと)をすることである。この言葉は「カモチル」に由来しており、カモチルとは京都府京都市を流れる鴨川の河岸に座って会話や散歩を楽しんだり本を読んだりピクニックをしたりすることである。これにならって宮川の河岸をさらに活気のある場所にする事で、市民が自然を感じながら落ち着く時間を過ごせる空間を作ることができる。ここで示す宮

川の範囲とは、宮川流域の仲橋から宮川緑地公園までの区間を指す。具体的な案は次のようである。①河岸に生えすぎた植物を整え、歩道を整備する②ベンチを増やす③宮川にフォーカスしたイベントを開くなどして「ミヤチル」をブランド化する。これにより今まであまり注目されていなかった宮川を高山市の新しい魅力として位置付けたい。高山の風土を日常的に感じることは良い経験・思い出となり、市民や訪問客の財産となるだろう。

➤ 担当課コメント

宮川の鍛冶橋から連合橋にかけてが宮川河川ふれあい公園、連合橋から万人橋下流までが宮川緑地公園として管理をしています。公園施設については、今後長寿命化などの再整備の中で有効な施設の設置を検討してきたいと考えています。（都市計画課）

いまい ひなた
今井 日菜詩さん

➤ 市の課題

街のゴミを無くすためのゴミ箱設置について

➤ アイデア

以前よりコロナウイルスが落ち着き、高山市への観光客の数も戻りつつあります。そんな中、問題となるのは、街に落ちているゴミです。高山市の街づくりにおいて、観光地や公共スペースにゴミ箱を設置し、街の美観と衛生を向上させることは重要だと考えます。しかし、ただゴミ箱を設置するだけでなく、市民や観光客の協力を得る工夫も求められます。

そこで、ゴミ箱と連動したスタンプラリーの実施を提案します。観光スポットやゴミ箱周辺にスタンプを配置し、訪問者がゴミを捨てながら町を回ることによって、地域への関心を高めつつ、ゴミを適切に処理する意識を育むことができます。さらに、集めたスタンプ数に応じた地域特産品や記念品の提供により、観光客の満足度も向上し、町おこしにも貢献できるでしょう。この取り組みにより、高山市の魅力がさらに引き立ち、清潔で活気ある街づくりが実現できると考えます。

➤ 担当課コメント

高山市の公衆衛生に関する規制等について定めた条例の一つに「高山市ポイ捨て等及び路上喫煙禁止条例」があります。この条例は、市民・観光客・事業者及び市が協力して環境の美化を図り、国際観光都市にふさわしい環境の整備に役立てるため平成20年4月1日に始まっています。条例では、ごみなどのポイ捨てや指定区域内での路上喫煙を禁止し、市民や事業者だけでなく観光客も、ごみを持ち帰るなど、ごみや吸い殻などを自らの責任で適正に処理するよう定めています。

かつてはごみ箱を設置していましたが、かえってごみの散乱を招いたことから、条例の考え方（ごみの発生自体を減らす、ごみなどは自らの責任で適正に処理する）に基づき現在はごみ箱を設置していません。

もし、ごみ箱を設置するとなると、何箇所ものごみ箱を散乱させないようにパトロールしたりごみを回収したりと、常時清潔に、適切に管理するための人手（お金）が必ず必要になります。今回はスタンプラリーによりごみ箱を利用した人にインセンティブを与えるアイデアをいただきましたが、スタンプラリーのように楽しんでもらいつつ、利用者に相應の対価を負担してもらえそうなアイデアがあると、実現に近づくと考えます。

ペンネーム：外舎 K2 郎さん

➤ 市の課題

大きな書店が少ないこと

➤ アイデア

大学に行って感じたのは高山には遊び場が少ないことと丸善ジュンク堂など大きな書店があまりないことです。高山市は観光地ということもあり、外国人向けの施策が多いこと、そしてそれが成功した場所であることは誇らしく思っています。だからこそ、次は住んでいる人の生活向上に目を向けてほしいです。江戸時代に、発展速度が速くなり経済活動が活発化した町では、識字率の発展庶民の富裕化に伴い、書店が多くでき、学問の中心地を担っていました。遊び場は今後いくらでも作れるかもしれませんが、ICT の発達している今、より早いタイミングで大きな書店を誘致することが重要だと感じます。また、中学校や高校、いずれできるかもしれない大学の学びを支える施設がまだ少ないとも感じたので、提案します。

➤ 担当課コメント

大型書店を含む商業施設の出店は、地域の人口や競合店の出店状況など、さまざまな条件を基に民間事業者が判断するものと考えていますが、学生の学びを支える施設という意味では、例えば若者等活動事務所「村半」や、市図書館「煥章館」があります。特に煥章館は、若者に人気のテーマを集めた「Z 世代のための 1 冊」コーナーや、静かに読書や勉強をするだけでなく、話し合いながらの学習や軽食を食べながらくつろぐことができる「交流スペース」を新しく設置するなど、新たな交流や学びが生まれるきっかけになる場所を目指して進化しています。また、今年度から放送大学高山分室が図書館に移転したので、大学と連携し、講義資料の閲覧や市民向け講座の開講などに取り組んでいます。これからも、生涯を通じ学びたいと考える方の学びを支える施設運営に取り組んでいきます。
(生涯学習課)

にしだ さやか
西田 彩花さん

➤ 市の課題

少子高齢化について

➤ アイデア

高山市の少子高齢化問題の原因の 1 つは高等学校を卒業した若者たちが高山を離れてしまうことだと思います。私も大学進学を機に高山を離れましたが数か月に 1 回のペースで帰省をしています。なぜなら高山が好きですすでに高山の魅力を十分知っているからです。

そこで私は若者向けに高山の情報を提供する機会を設けるべきだと思います。高山市にある高等学校と連携し高山市の情報が載ったフリーペーパー等の配布を通じて若者世代が地元へ戻ろうという気持ちを引き起こすきっかけが出来ると思いました。またフリーペーパーは観光客向けにも配布することで高山市が観光地としてだけでなく移住先としても良いことをアピールし、高山市全体の定住人口を増やすきっかけになると思います。生ま

れたときから高山市に住む住民によって地域を活性化させることが理想ですが、今後は外部の力をお借りしつつ持続可能な高山市を作っていく方が良いと考えました。

➤ 担当課コメント

市では、毎月発行する広報紙「広報たかやま」をはじめ、ホームページや地元 FM ラジオ、ケーブルテレビなど多様な媒体を活用して市政情報を発信しています。SNS やプレスリリース配信サービス（PR TIMES）などのデジタル媒体を活用した広報活動にも力を入れており、市政情報のほかにまちのできごと、市民が活動する様子などを幅広く発信しています。

提案いただいた若者向けのフリーペーパーの発行予定はありませんが、市内高校を通じて市公式 SNS を紹介したり、飛騨高山インスタアンバサダーによる「市民目線の、市民だからこそ知っている高山市の情報や魅力」を市内外に発信したりしています。

若者や高齢者を含め市民の皆さんに、伝えるだけでなく「伝わる広報」となるよう今後も取り組んでいきます。ぜひ市の広報媒体をご覧ください、市公式 SNS のフォローや周りの仲間への共有などもお願いします。（広報公聴課）

市内で暮らす小中高生や、市外在住の市出身の若者に対し、市内で活躍する出身者（U ターン者）の姿を発信することで、「将来高山に戻りたい」という気持ちの醸成や、「高山市に戻ってくる」ことをごく自然に選択肢の一つとしてもらえるよう、取り組んでいます。また、SNS を通じて高山市での豊かな日常生活の様子を発信し、市外に在住する市出身者のほか、観光等を通じて高山市に興味を持っていただいた方にも、住む場所としての高山の魅力が伝わるよう取り組んでいます。（ブランド戦略課）

アイデア全体について

（総合政策課）

飛騨地域には4年制大学がないこともあり、多くの高校生が進学等で地元を離れるため、10代後半から20代の人口が少ない構造的な課題があります。

高山市でも今後のまちづくりを考えるうえで、若者の存在が大変重要であるとの認識のもと「若者が活躍できるまちづくり」をテーマに掲げ、地元の若者や大学生、高校生など様々な方と意見交換等行ってきました。

その結果、ご提案いただいた内容も含め様々な意見をいただきましたので、実施について検討し、今年度策定する高山市第九次総合計画をはじめ各種計画に反映させていきます。

今後も「若者が活躍できるまちづくり」に向けて取り組んでいきますのでよろしくお願いします。

（雇用・産業創出課）

市内には魅力的な企業や仕事が数多くありますが、それを知らない、もしくはないと思っている方が多いため、若者にそれを知っていただくことが大変重要と考えています。「二十歳のつどい」への参加確認に併せ、就職情報の希望を確認しており、希望者にはメールで直接就職情報を提供する取り組みを実施しています。ぜひご登録ください。

高山市雇用促進協議会では、高校卒業前に市内企業を知っていただくため、市内企業バス見学ツアーや、市内で活躍する若手社員を高校に派遣する取り組みのほか、令和5年度

より例年作成している「職場ガイドたかやま」を若者の目にとまりやすいよう電子書籍で発行しています。

ユーターンシップサポーターズ（事務局：高山商工会議所）と意見交換をしながら、インターンシップを受け入れする企業に対する助成を実施するとともに、学生に向けた周知を連携して実施しています。ユーターンシップサポーターズでは夏休みに会社見学バスツアーも実施しています。

小さい時からの取り組みによるシビックプライド（市民としての誇りと地域貢献意識）の醸成も重要であると考えており、飛騨高山フューチャープロジェクトが実施する、小中学生とその保護者を対象に、地元の仕事を知り、体験し、PRすることで職業観と地域愛を学ぶ「地域お仕事発見隊」に対して支援しています。

R6年度より、地元就職した若者が高山市で楽しく生活していけるよう、市内企業に採用された若手社員が抱える悩みや課題、働きがい、スキルアップをテーマに他社の同世代の社員との交流を通じて仕事に対するモチベーションを高め、地元定着を図るため、若手社員向けセミナー「YAONA!」を開催しています。